

青山学院女子短期大学紀要第六十輯の刊行を祝して

院長 深 町 正 信

このたび、青山学院女子短期大学の「紀要第六十輯」が発刊されることは、まことに同慶の至りであります。一九五二年の創刊以来、毎号、今日の教育課題を取り上げて、充実した研究論文を掲載されてきました。これまで真摯に研究されてきた関係者の方々のご尽力に対して心からの敬意を表します。

青山学院は第二次世界大戦後、新しい学校制度のもとで大きく変貌を遂げましたが、青山学院女子専門部は創立以来の固有の女子教育の伝統を継ぐ第一の部門として存続しました。そして、一九五〇（昭和二十五）年に国文専攻と英文専攻の文科と、家政科をもつ女子短期大学となりました。一九六二年には児童教育科を増設するとともに、国文科、英文科が独立し、翌一九六三年には各科に専攻科が設置されました。一九六六年に発足した教養科は一九六九年に教養学科とし、他の科も同様に改称、また、教養学専攻科を増設し、さらに、一九八九年には芸術学科、一九九一年に芸術学専攻科が増設されました。なお二〇〇六年に児童教育学科を改組し、子ども学科（三年制）の設置となりました。

青山学院の教育の特色は、建学の精神と「教育方針」にあります。これは幼稚園から女子短期大学、大学、大学院までの、すべての者に対する基本的な教育の理念と目標として、常に内外に明らかにしているものです。それは、創立一三二年を一貫する建学の精神とその教育でありまして、創立九十周年（一九六四年）の式典で条文として発表されています。すなわち、「青山学院の教育は キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」とい

うことであります。

青山学院女子短期大学では、各専門分野における教育と学問研究の場において、学生の人間形成が行われますが、その基盤において、真に人を愛し、自然を大切にすることをキリスト教の信仰と精神を尊重する活動が営まれています。創立以来、優れた大学の教師陣は充実した学問と豊かな教養に基づく全人教育の環境を用意し、学生一人ひとりが個性的に自分で考えつつ、学術に挑戦する間に教養を培います。それは真の国際化、情報化時代の大学の在り方の基本でもあると考えます。

一九五二年以来、青山学院女子短期大学の「紀要」は毎号貴重な問題提起を載せ、教員、学生、校友、そして全国の大学や図書館に贈呈して、学術研究を広め、深めていることは大きな意義のあることです。特に、キリスト教と諸学の課題、女子の高等教育の歴史とその遺産に関わる現代の諸問題は、青山学院女子短期大学でなければ取り組むことが出来ない特有の課題でもあります。当初より、優れた研究者が多数居られるので、密度の高い研究成果をあげてきていると思います。今後も益々充実して特色ある論考を展開して、学内外に貢献できることを大いに期待したいと思います。

結びに、十八世紀にオックスフォード大学を出て、英国の多くの人を信仰復興運動により救い、メソジスト教会の祖となったジョン・ウエスレーは、「教育とは知識と敬虔の融合である」と言い、学問と同時に神を真に敬うことの意義を語っています。それが青山学院の建学の精神に継承されています。「知」と「信」による青山学院の人間らしさを育成する、青山学院女子短期大学の「紀要」の歩みが祝福されることを心から祈り、「第六十輯」記念の挨拶といたします。